

ヒシクイ

Anser fabalis (Latham)

カモ目カモ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧

選定理由

非常に警戒心が強く、人との接触をいやがる。水田の減少および乾田化で、生息地と餌が減少している。

形態

亜種ヒシクイ全長78～89cm。亜種オオヒシクイ全長90～100cm。雌雄同色。きわめて大型のガン。嘴は黒色で、先端付近にオレンジ色の部分がある。マガンと異なり額は白くなく、頭と嘴が体に比べて大きい。

国内分布

冬鳥として2亜種が渡来する。亜種ヒシクイは北海道を経て宮城県北部まで、亜種オオヒシクイは北海道を經由して日本海沿いに琵琶湖まで南下する。両亜種とも約6,000羽が飛来。

県内分布

冬鳥として片野鴨池に毎年300～600羽が渡来する。ほとんどは亜種オオヒシクイである。その他に珠洲では約200羽、河北潟、邑知潟に少数が渡来する。

生態

亜種により生息地の環境は著しく異なる。亜種ヒシクイは開けた環境で生活するのに適しており、広い水田に終日とどまり、夜も畔の湖沼に帰らずそこで過ごすことも珍しくない。一方、亜種オオヒシクイは湿地での生活に適応した体型をしており、マコモやヒシなどの水生植物が繁茂した沼を好み、これらの根茎や種子を長い首と嘴を使い沼の中で採食することを好む。警戒心が非常に強い。

生息地の条件

人がほとんど入らないような広い水田（湿田）や湿地があり、落ち着いて寝られる畔（池や潟）があること。

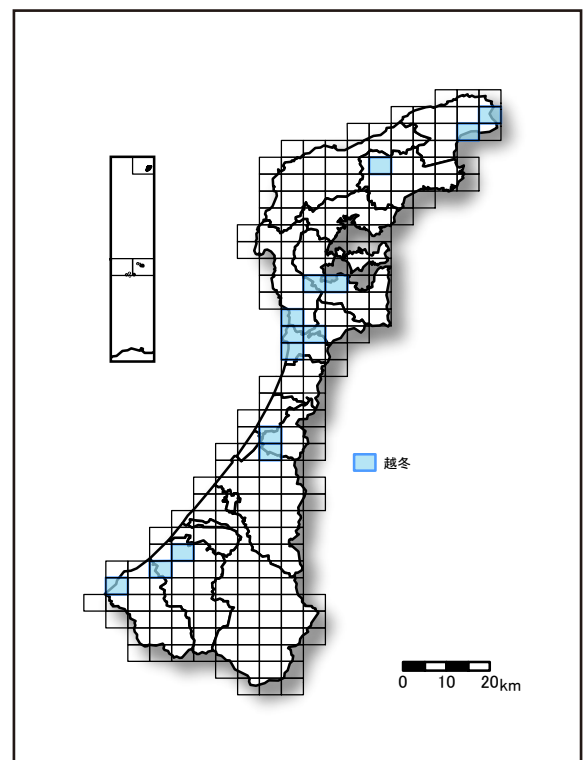
生存の危機

水田の減少および乾田化により、生息地と餌が不足。ハンターによる間接的な影響も大きい。(A)

特記事項

国指定天然記念物。

国カテゴリーで、亜種ヒシクイA. f. *middendorffii* 絶滅危惧Ⅱ類、亜種オオヒシクイA. f. *serrirostris* 準絶滅危惧。



県内の分布